

現場教員等との意見交換会における意見聴取の概要

I 趣 旨

第6次山形県教育振興計画の策定に当たって、現場教員等に意見聴取し、計画策定の参考とする。

II 概 要

- (1) 聴取期間 平成 26 年 1 月 24 日から 2 月 7 日
- (2) 聴取方法 県内 4 地区において教員との懇談会を開催。11 月 22 日の第 6 次山形県教育振興計画検討委員会資料を説明し、意見を伺う。
- (3) 参加教員 幼稚園教諭 4 名、小学校 12 名、中学校 9 名、高等学校 9 名、特別支援学校 4 名、社会教育担当 8 名 計 46 名

III 意見の概要

【基本目標】

1 全体的事項

- 「かかわる」ことで「つながり」、基本目標にある「山形の未来を拓く人づくり」ということになると、お返しするということであると思うので、テーマとしては、「かかわる、つながる、尽くす」がキーワードになるのではないかと。
- いのち輝く人間の育成というと、個々の子どもたちについてというイメージがあるが、子どもたちがつながり、協働して何かを成し遂げる姿、つらいことでも一緒に乗り越えたりする姿が山形を愛することにつながり、自分の基盤ともなり、山形の未来を拓く人づくりにつながるのではないかと思った。
- 基本目標は全体が向上していくということであると思うので、全ての子どもが教育によって良くなるというような人間像が欲しい。

2 「人間力」について

- 「感性」「いのち」の流れから考えると、「人間力」を捉えることができる。
- 説明を受けて、「人間力」について納得できたが、記載内容は舌足らずだと思う。基本目標に設定した経緯や言葉の説明が必要である。
- 「人間力」という言葉は、印象が強く、インパクトされやすい言葉である。
- 「人間力に溢れ」は、すごいオーラがあり、話してみたいとか、付き合ってみたいというような存在自体がつながる感覚を生み出させるような人という感じを受ける。
- 「人間力に溢れ」は、溢れてしまうイメージもある。また、子どもにもわかるように伝えていくためには、「溢れ」は平仮名の方が良い。

- 障がいのある生徒は、何かに秀でている部分もあるが、やりにくい部分もあることからすると、それぞれの「人間力」がある。例えば「豊かな人間力を持って」などとすれば、それぞれの「人間力」となるのではないか。

3 「山形の未来を拓く」について

- 庄内の高校では、約2,800人の卒業生のうち、約6割が県外に出て行ってしまう。そうした意味からしても、「山形の未来を拓く人づくり」という言葉は是非とも入れたい。

【めざす人間像】

1 全体的事項

- 「めざす人間像」として掲げた4つは、いずれも、これからの時代を生きていくために必要な要素である。また、県のメッセージとして、伝わりやすい。
- 「めざす人間“像”」を「めざす人間“力”」とし、基本目標と対応させることによって、「人間力」がわかりやすくなるのではないか。
- 「つながる」ことと「続ける」ことは、新しい時代を生きぬき、これからも目まぐるしく変わる社会に対応できる人を育てていくためにも大切である。
- 「いのちをつなぐ人」がいて、「まなび続ける人」がいて、成長し、「地域とつながり続ける人」がいるという流れはイメージしやすい。また、基本方針へのつながりもわかりやすい。しかし、4つのめざす人間像は独立していながら、それぞれ関連しているものであることをわかるようにすべきである。

2 「いのちをつなぐ人」について

- 様々な家庭があり、子どもを愛おしいと思えることや親として子どもと向き合う時間が少なくなってきたと感じる。
- 安心して子育てができるように、保護者が子どものために費やせる時間が多くなればと思う。
- 「いのちをつなぐあたたかい人」であるとか、「いのちをつなぐ思いやりのある人」というように、「いのち」をつないで、どういった人を目指すのかという具体性を持たせることもいいのではないか。

3 「まなび続ける人」について

- グローバル化が進む中で、広い視野を持ち、自分が地域、社会の中でどういった人になっていきたいかという意志を持つ、という意味を感じ取ったところであり、評価できる。

4 「広い視野と高い志を持つ人」について

- 今の時代だからこそ、「視野」と「志」という言葉は必要である。
- 「広い視野～」は確かに大切なことだが、他の人間像と比べると性格が違う印象がある。
- 「広い視野～」をどのような施策でどのように評価していくのかということをあわせて理解していくとわかりやすくなるのではないか。

- まなびの中でのそれぞれの目標等もあるかと思うが、「広い視野と高い志」は、小学校で持てなくても、例えば高校で持てたらという思いもある。

5 「まなび続ける人」と「広い視野と高い志を持つ人」の関係

- 「まなび続ける」ことで、「広い視野や高い志」が生まれてくる。そうした意味から、「まなび続ける人」と「広い視野～」はセットで考えてもいいのではないか。
- 「まなび続ける人」の志や目標といったものと、「広い視野と高い志を持つ人」でいう「広い視野」や「志」は一つレベルが違うという意味合いを感じている。それぞれ別個に掲げるべきと考える。

【基本方針と主要な施策について】

1 いじめ対策について

- 「いじめ対策」は、県民の注目度が高いと思うし、現場で一番意識するところであるので、より大きく扱ってほしい。
- 子どもは、いじめを「いじめ」と「陰のいじめ」に分けて考えている。「陰のいじめ」はラインやフェイスブックによるものなど。陰のいじめについて対応が必要。また、生徒会の連絡協議会など、子どもによる話合いの機会も重要な取組みである。
- 看護師の後藤敬子さんが講演した学校では、悩んでいる多くの子どもたちが前向きになった。
- 道徳資料としてだけでなく、「いのちの教育」を進めていくためにも、視聴覚資料を作成してもらいたい。
- 「いのちをつなぐ」で、生命の縦糸の他に、自他の生命や生き方という横糸の部分を考えるといじめ対策は、基本方針Ⅲの「豊かな心」ではなく、基本方針Ⅰの「いのち」に入ってくるのではないか。

2 基本方針Ⅲ「豊かな心と健やかな体を育成する」について

- 家庭教育にも「いのちをつなぐ」ことを重点的に盛り込むことは大切である。
- 3歳、4歳あたりの家庭内での保育姿勢が変わってきており、その年代までの教育を保護者が学ぶ機会を充実することの必要性を感じている。
- 幼児共育講座は保護者の感想も良く、効果があると感じているので、引き続きやっていただきたい。また、企業とも連携して、子育てしやすい環境を進めてほしい。
- 家庭教育の大切さを伝えようと、学校や保育所・幼稚園等で講習会をやってもなかなか人が集まらない。参加しない保護者にどう届けるのかが課題である。
- 今の親に教育することはなかなか難しい面もあるため、10年計画の中で、現在10代の将来親になる生徒たちに家庭教育の大切さを教えていくことが必要であると感じる。そこで生の教育を体験させようといういろいろ講座を展開し、評判も良いが、希望の学校が少ないので、学校現場でも家庭教育の大切さを今以上に認識し、連携を深めていければいい。
- 食育についても生きる力を付けるために大切である。

3 基本方針Ⅳ「確かな学力と時代の変化に対応できる能力を育成する」について

- 主要な施策に、「産業教育の充実」ということも入れていただきたい。
- ICTは学習内容の理解を深めるための道具として、図書館の資料と同列であると思われるので、知識の習得に利用するためのICT教育といった方向が良いのではないか。

4 基本方針Ⅴ「特別なニーズに対応した教育を推進する」について

- 特別支援教育の観点から、施策13の中に「個々の障がいに応じた環境整備」という言葉を明文化していただけるとありがたい。
- インクルーシブ教育でも、共に学び、つながるといことが大切になってくると思われるので、環境整備についても考えていただきたい。
- 発達障がいの生徒の進学を受け皿についても考えていただきたい。
- 特別な支援が必要な生徒は様々な人からの支援が必要であり、「つながる」ことは大切な視点である。

5 基本方針Ⅷ「活力あるコミュニティ形成に向け、地域の教育力を高める」について

- 「公民館等を拠点とした・・・」とあるが、公民館が減少する中、「公民館や地域の施設を拠点とした・・・」とした方がいいのではないか。
- 「青少年の地域力の発揮」とあるが、施策の内容が青少年ボランティア活動、青年リーダーの育成等であれば、「青少年が地域で力を発揮する・・・」といった言葉の方が分かりやすいのではないか。